

- 1 三原市立第五中学校
- 2 第3学年 総合的な学習の時間
- 3 「ジブンゴト」減災プロジェクト ～その判断は、誰を守るのか～
- 4 授業者：教諭 新出美穂、教諭 森本瑞穂

## 1 はじめに

本校では、一昨年度よりPBL(Project Based Learning)の視点を取り入れた学習に取り組んできた。PBLは、実社会の出来事や課題を題材とし、思考・判断・表現をつなぐ学習である。その過程では、多様な情報をもとに根拠をもって考えることが求められる。



こうした学びの質を高めるため、本校では新聞を活用したNIE(Newspaper in Education)に着目した。新聞は、社会で起きている出来事を多面的・客観的に伝える媒体であり、異なる立場や視点から情報を比較・検討できる点に価値がある。NIEを取り入れることで、生徒は社会的事象を自分事として捉えるようになり、根拠に基づいて思考し判断する姿が見られるようになった。これにより、PBLの学びはより深まりのあるものへと変容してきた。



【学習環境の工夫】司書教諭の特設コーナー

これまで、総合的な学習の時間を中心に実践を重ねてきた。こうした成果を踏まえ、この学びを一過性のものにとどめず、より広く、継続的に位置付ける必要があると考えた。本年度は、その成果を教科の学習へと展開し、NIEを基盤とした学びを教科と総合的な学習

の時間の双方で往還させるカリキュラムの構築を目指している。

## 2 実践の内容

### (1) 学校全体での取組

本校では、NIEを単元内の活動にとどめるのではなく、モジュール学習や各教科の学習と関連付けながら、学校全体での取組として位置付け、段階的に実践を進めている。特に、短時間で継続的に取り組むモジュール学習において新聞を活用することで、文章に慣れ親しみ、情報を読み取る力の基盤を育成している。

また、各教科においても、新聞記事を活用した課題設定や資料の読み取り、意見表現の場面を取り入れる実践が進められている。これにより、教科の学びと社会の接続を図っている。

このように、NIEを基盤として、モジュール学習・教科・総合的な学習の時間を関連付けながら、学びを構造的に展開している。



(生徒のNIEワークシート)  
(令和7年11月27日付中国新聞から)

### (2) 年間を通じた学びの系統性

本校では、新聞を活用した学びを発達段階に応じて段階的に位置付けている。なお、モジュール学習において継続的に新聞に触れる

活動を取り入れ、日常的に情報に向き合う姿勢を育んでいる。

第1学年では、新聞に慣れ親しむことを重視している。見出しや写真に着目しながら記事の内容を捉えたり、気になった記事の要点をまとめたりする活動を通して、情報を読み取る基礎的な力を育成している。



（【新聞の読み方を学ぶ】中国新聞社 出前授業の様子）

第2学年では、複数の記事を関連付けて読む活動を取り入れている。同じテーマについて異なる視点から書かれた記事を比較・検討することで、情報を多面的に捉え、自分の考えを形成する学びへと発展させている。

第3学年では、これまでの学びをもとに、社会的事象に対して自ら課題を見だし、判断する学習へとつなげている。新聞から得た情報を根拠として活用しながら考えをまとめ、社会に対して提案し、その妥当性を検証する学びを位置付けている。

このように、本校では新聞を活用した学びを段階的に発展させている。これらの積み重ねを踏まえ、第3学年の本単元を位置付けている。

### （3）本単元の位置付けとねらい

本単元は、第3学年における実践であり、これまでの新聞を活用した学びの集大成として位置付けている。新聞を活用したNIEを基盤として、PBLの視点を取り入れた学習を展開する。生徒が社会的事象を自分事として捉

え、課題を発見するとともに、多様な情報をもとに考えを深め、表現する力の育成を目指している。

その際、NIEで培う読解力や情報活用能力を、PBLの探究過程（課題設定・情報収集・整理分析・表現）に位置付け、両者を関連付けながら学びを構想している。生徒は、新聞から得られる多様な情報をもとに社会的事象を多面的に捉え、自ら課題を見いだす。そして、情報の収集・整理・分析を通して考えを形成し、根拠を明確にしながら判断する学びを展開する。本単元では、こうした学びを通して、生徒が「減災」を自分事として捉え、根拠をもって判断し行動する力を育成することを目指す。

## 3 単元について

### （1）単元名

「ジブンゴト」減災プロジェクト  
～その判断は、誰を守るのか～

### （2）単元の目標

- ・災害に関する新聞記事や資料から、災害時の課題や対応の違いを読み取り、事実と意見を区別して整理することができる。

【知識・技能】

- ・災害時における「自分の判断」が誰を守り、誰に影響するのかを多面的に考え、自分の判断を見直し、選び直しながら、被害を減らすためのよりよい判断を構想し、根拠をもって表現することができる。

【思考・判断・表現】

- ・自分や他者の命を守り、被害を減らすという視点から課題を自分事として捉え、他者の考えを取り入れながら、自らの判断を問い直し、よりよい減災の在り方を追究しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導計画 (全 23 時間)

| 次 | 時             | 学習活動                                                                                                               |
|---|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1<br>～<br>4   | <b>課題設定</b><br>・ 修学旅行（人と防災未来センター）を振り返る。<br>・ 三原市の災害リスクを新聞・資料で確認する。<br>・ 課題を設定する。                                   |
| 2 | 5<br>～<br>8   | <b>情報の収集</b> <b>整理・分析</b><br>・ 新聞記事を読み比べる。（中国新聞等）<br>・ 「誰の立場か」「何が課題か」を整理する。<br>・ 対象者別に視点を整理する。                     |
| 3 | 9<br>～<br>13  | <b>整理・分析</b> <b>まとめ・表現</b><br>・ 防災バッグ第一次案を作成する。<br>・ 防災士による講話を聞く。<br>・ <b>根拠をもとに説明する。【本時】</b><br>・ 学年・地域での投票を実施する。 |
| 4 | 14<br>～<br>17 | <b>整理・分析</b> <b>課題の再設定</b><br>・ 投票結果を分析する。（ズレの認識）<br>・ 新聞記事やゲストにより、自分の判断に揺さぶりをかける。<br>・ 防災バッグを再検討・再構築する。           |
| 5 | 18<br>～<br>21 | <b>情報の収集</b> <b>整理・分析</b><br>・ 家庭や地域と共同して防災アクションデイを実施する。<br>・ 実際に作成した防災バッグを使用して検証する。<br>・ 必要性・不足・想定外を整理する。         |
| 6 | 22<br>～<br>23 | <b>まとめ・表現</b><br>・ 防災バッグ最終案を作成する。（Ver.3）<br>・ 判断理由を整理する。<br>・ 家庭・地域へ発信する。                                          |

#### 4 本時について

(1) 本時の目標

新聞記事や防災士の話、行政機関の資料を根拠として、防災バッグに入れたもの・入れなかったものを説明し、自分が大切にしたい考え方を明らかにすることができる。

(2) 評価規準

| ① 知識・技能                                                                      | ② 思考・判断・表現                                                                | ③ 主体的に学習に取り組む態度                              |
|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 防災バッグの中身は、地域の災害リスクや立場、守りたいものによって異なることを理解し、新聞記事や防災士の話、行政機関の資料を基に必要な情報を活用している。 | 新聞記事や防災士の話、行政機関の資料を根拠として、防災バッグに入れるもの・入れないものを判断し、その理由や自分が大切にしたい考え方を説明している。 | 自分や他者の選択を比較しながら、防災バッグに表れている考え方について考えようとしている。 |

(3) 本時の展開

| 時間      | 学習活動                                                                                                                                           | 指導上の留意点<br>(○…NIE、●…探究)                                                                                                                        | 評価 |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 導入      | 1. 前時までの学習を振り返る。<br>・現時点で防災バッグを確認する。<br>2. 授業者の防災バッグを提示する。<br>3. 本時の課題を確認する。<br><div>「ジブンの防災バッグの選択を、根拠をもとに説明し、自分が大切にしたい考え方を明らかにしよう」</div>      | ○防災士の講話やこれまで活用してきた新聞記事を想起させる。<br>●前時までに見せた授業者の防災バッグと違う防災バッグを提示し、「なぜそれを選んだのか」説明させる。<br>●選択そのものではなく、判断の根拠や考え方に目を向けさせる。                           |    |
| 展開<br>1 | 3. 自分の防災バッグを見直し、説明したいものを選ぶ。                                                                                                                    | ●入れたもの、入れなかったもの、悩んでいるもの（本当は入れたかったもの）をそれぞれベン図に整理させる。<br>○根拠となる資料（新聞記事、防災士の話、行政資料等）を整理させる。<br>○これまで活用した資料を再度参照できるようにしておく。<br>●複数の資料から説明できるように促す。 |    |
| 展開<br>2 | 4. グループで説明しあう。<br>・交流の視点<br>①なぜ入れた（入れなかった）のか<br>②どの資料を根拠にしたのか<br>③入れたいものはほかにあったのに、なぜこれを選んだのか<br>④ジブンは何を大切に選んだのか                                | ●「記事に書いてあったから」で終わらず、優先したことや判断した背景を説明させる。                                                                                                       | ②  |
| 展開<br>3 | 5. 交流を通して見えてきた考え方を比較する。<br><div>             予想される考え方<br/>             ・命を守る ・健康を守る ・安心して過ごす<br/>             ・家族とのつながりを守る など           </div> | ●地域の災害リスクや立場、守りたいものの違いに気付かせる。<br>●防災バッグに一つの正解はなく、何を大切にするかによって選択が異なることを捉えさせる。                                                                   | ③  |
| まとめ     | 6. 全体交流し、本時の内容を振り返る。                                                                                                                           | ●根拠と考え方を結び付けて振り返らせる。                                                                                                                           |    |